

火星大接近

大接近する火星を見よう！



火星の姿 撮影：川端孝幸

いよいよ火星が大接近します。

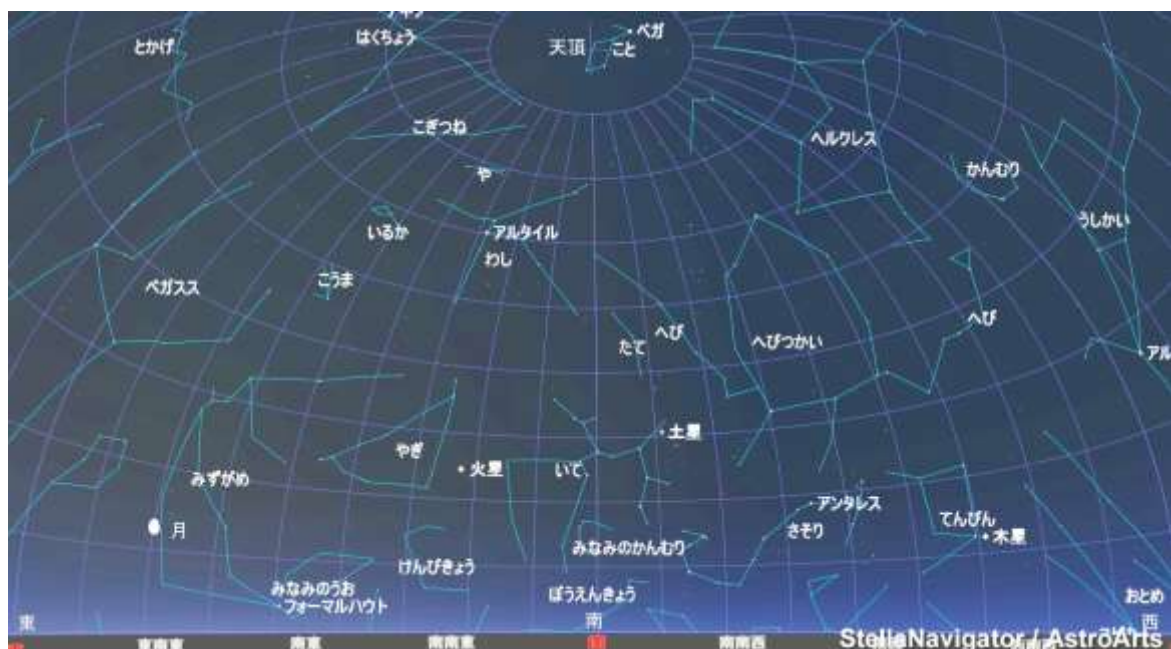
最も地球に近づくのは7月31日ですが、地球も火星も太陽の周りを公転しているために、大接近の前も後も比較的大きく、明るく観察することができます。

7月の空では、位置はやぎ座にあります、－（マイナス）2等級の明るい輝きで、ほかの星よりも赤みの強い輝きですからすぐに判別できます。

火星をみつけたら星座の中の位置を確認しましょう。というのも、地球と接近し、そしてまた離れていきますので、見かけ上は星座の中をうろうろと動いているように見えるのです。といっても1日での位置の移動は気づかないほどわずかなのですが、数日おきに観察すれば位置の移動がはっきりとわかることでしょう。

天体望遠鏡での観察では、表面模様も観察でき、火星の極に相当する部分には極冠というドライアイスが凍っている白い部分や地形によって赤みがかった部分や黒っぽく見えるところが確認できます。

15年ぶりの大接近ですので、ぜひ天体望遠鏡を使ってその姿を確認しましょう。



この図は、火星大接近の7月31日の午後11時の南の空のシミュレーション星図ですが、これを見ると加勢とともに南の空には木星、土星も見られることがわかります。この星図は、(株)アストローツの許諾を受け、天文シミュレーションソフト ステラナビゲーターを使用しています。

夏の星空

夏の星空には天の川が濃く目立ちますが、光害（ひかりがい）の多い都会地では残念ながら星は見えても天の川まで見ることはできません。

東洋の物語では、天の川は星空の中にある川といわれ、もっとも有名なお話は七夕伝説です。牽牛（彦星）と織女（織姫星）が1年に一度、7月7日に会うことができるといったお話ですが、お天気が悪いと川の水かさが増して二人が会うことができないといった悲しいお話でもあります。

実際の星空の中では、天の川を挟んで、わし座の中の1等星アルタイルが彦星、こと座の中の0等星ベガが織女星です。

これに天の川の中にあるはくちょう座の1等星デネブを加えて3星を結んでできる三角形が夏の大きな三角と呼ばれる星の配列となります。

夏の星空では、まず、この3星を見つけ、それぞれの星座の形の星の配列を確認し、次に夏の大きな三角を中心にさそり座、いて座、へびつかい座、ヘルクレス座などの夏の星座をさがし、その位置や形を覚えましょう。



夏の大三角（撮影：田中千秋 群馬県神津牧場天文台にて）

7月の星空

7月は夏の星座が空一面輝いています。

夏の星座に加え、木星、土星それに大接近してきた火星が見られますので、とてもにぎやかな星空です。

星図をたよりに星空を見上げましょう。

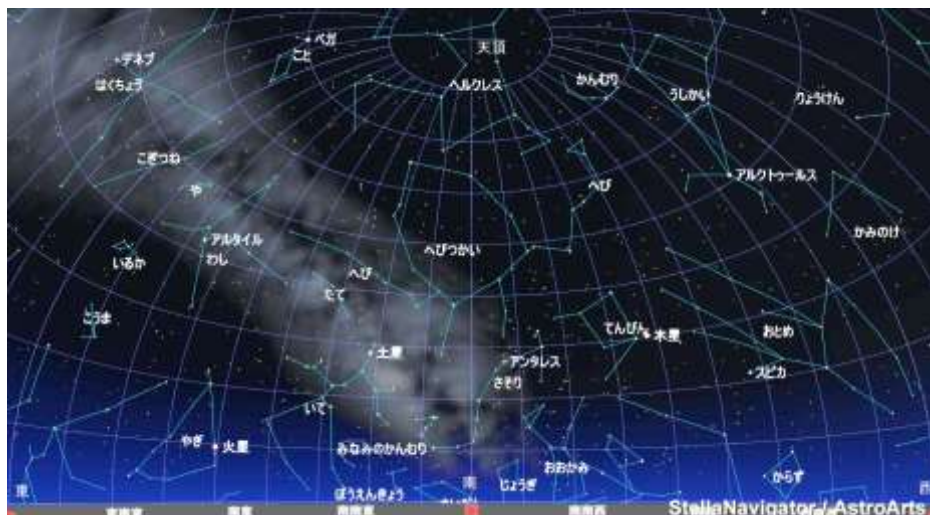
天頂付近に見られる「夏の大三角」を見つけ、続いてその周囲の星座や南の低空に見られるさそり座などをみつけましょう。

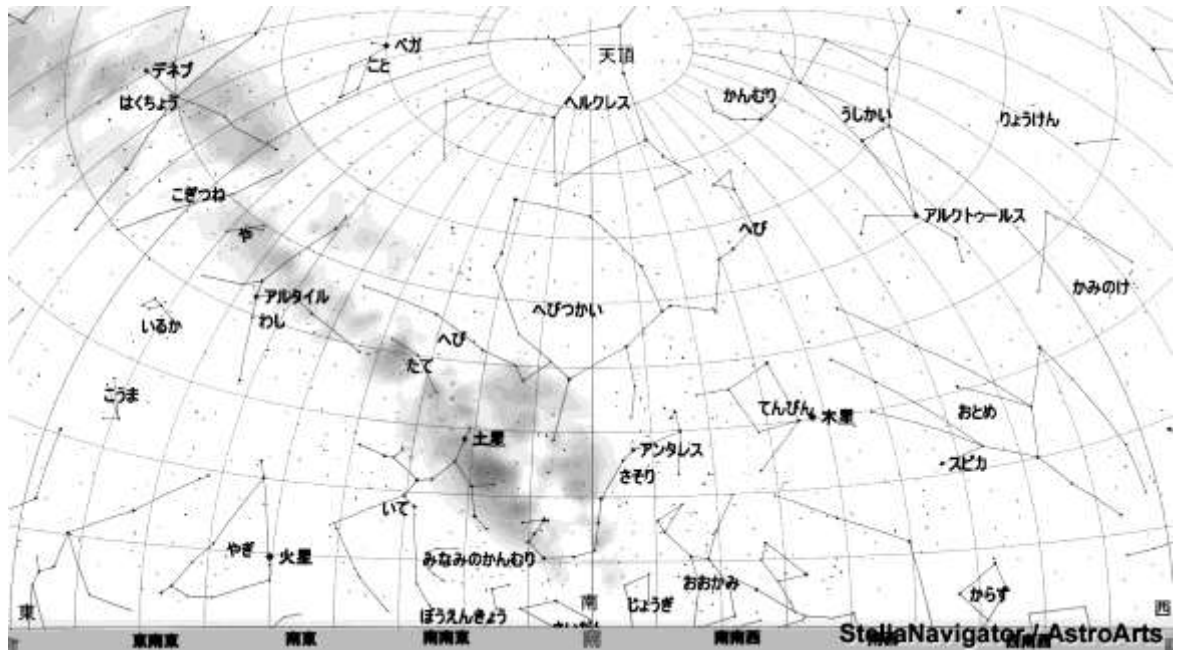
星座の形状や名前は、下図の星図をクリックして大きくなった星図をプリントアウトして参照してください。

7月の天文情報

日	曜日	月齢	天文現象など
1	日	17.3	
2	月	18.3	半夏生(太陽黄経100°)
3	火	19.3	
4	水	20.3	
5	木	21.3	
6	金	22.3	下弦の月 月が天の赤道を通過(北半球へ)
7	土	23.3	小暑(二十四節気) セタ(たなばた) 地球が遠日点を通過
8	日	24.3	
9	月	25.3	
10	火	26.3	金星がレグルスに接近
11	水	27.3	
12	木	28.3	水星が東方最大離角 月の赤緯が最北
13	金	0.0	新月 月の距離が最近
14	土	1.0	
15	日	2.0	
16	月	3.0	細い月と金星が接近
17	火	4.0	
18	水	5.0	
19	木	6.0	月が天の赤道を通過(南半球へ)
20	金	7.0	夏の土用(太陽黄経117°) 上弦の月
21	土	8.0	月と木星が接近
22	日	9.0	
23	月	10.0	大暑(二十四節気)
24	火	11.0	
25	水	12.0	月と土星が接近
26	木	13.0	月の赤緯が最南
27	金	14.0	月の距離が最遠
28	土	15.0	満月 皆既月食(5時22分) 火星が衝
29	日	16.0	
30	月	17.0	みずがめ座δ流星群の極大
31	火	18.0	火星が地球と最接近

7月の星図





7月の中旬、午後9時ころの星空です。星図は、(株)アストロアーツの許諾を受け、天文ソフト「ステラナビゲータ10」を使用しています。